

繼母ニハ值タリ、過ガタカリケレバコソ、中御門藤中納言家成卿ノ播磨守ニテオハセシ時、受領ノ鞭ヲ取、朝夕ニ貲ノ直垂ニ繩絃ノ足駄ハキテ通給シカバ、京童部ハ、高平太ト云テ笑シゾカシ、其ヲ耻シトヤ思給ケン、扇ニテ顔ヲ隠シ、骨ノ中ヨリ鼻ヲ出シテ、閑道ヲ通給シカバ、又童部ガ先ヲ切テ、高平太殿ガ扇ニテ鼻ヲ挾タルゾヤトテ、後ニハ鼻平太、鼻平太トコソイハレ給シカ。

〔平家物語〕燈籠の事

すべて此大臣重盛○平は、めつざいしやうせんのこ、ろざしふかうおはしければ、たうらいのふちんをなげき、六八弘誓の願になぞらへて、東山のふもと四十八けんの精舍をたて、一けんに一つ、四十八のどうろうをかけられたりければ略○中、それよりしてこそ、此大臣をどうろうの大臣とは申けれ。

〔平家物語〕五月見の事

まつよひの小侍従と申す女房も、この御所藤原太子太皇后にぞ候はれける、そもそも此女房を、まつよひごめされける事は、ある時、御前より、まつよひ歸るあした、いづれかあはれはまさるとおほせければ、かの女房、

まつよひのふけ行かねのこゑきけばかへるあしたの鳥はものかは、と申たりけるゆゑにこそ、まつよひとはめされけれ、大將實定○藤原この女房をよび出て、むかし今のお語をもし給ひて、後、藏人をめして、侍従が何と思ふやらん、あまりに名ごりをしげに見えつるに、なんち歸てさもかくもいふてこよとのたまへば、藏人はしりかへりかしこまつて、是は大將殿の申せと候とて、女房とりあへず